

司法書士法教育ネットワーク第8回定時総会・記念研究会

「18歳選挙権」で変わる！？ 高校の教育

—高校生と一緒に作る「これからの法教育」— (5-3)

2016年6月19日(日)午後1時30分～午後4時45分 京都司法書士会会館にて

登壇者： 小牧美江氏 司法書士 司法書士法教育ネットワーク事務局長
広瀬 隆氏 司法書士 全国青年司法書士協議会副会長
杉浦真理氏 立命館宇治中学高等学校教諭
進行役： 前田道利氏 司法書士 近畿司法書士会連合法教育推進委員会副委員長
奈良県司法書士会法教育委員会委員長

(3)

★スペシャル企画：高校生と語ろう！「これからの法教育」

- 前田 ここからは、少しフレンドリーな感じでやっていきたいと思います。
ずらっと、来てくださいました、立命館宇治高校、私立高校。京都市の隣の宇治市というところにあるんですけども、そちらから来てくださいました。一番向こうが、杉浦真理先生。あとで、詳しくお話しを伺いたいと思います。こちらにずらりと並んでらっしゃいますのが、現役の高校生です。
ちょっと、一人ずつ、お名前と学年と、なぜ、ここに来たのかとか、あと、クラブとか、自己紹介をしていただいていた方がいいですか。
- A君 高校2年のAです。部活はアメリカンフットボール部で、なんでここに来たかと言うと、18歳選挙権が得られた今、あんまり自分に、選挙をホンマに、投票して良いのか不安なことがいっぱいあるし、もっとどんどんそういうことを知りたいと思うので来ました。今日は、よろしく願います。
- B君 高校2年のBです。部活はアメリカンフットボール部で、なんでここに来たかと言うと、18歳選挙権がもう決まって、いよいよ自分も関係あるなと思ったので、興味をもったので来ました。
- C君 高校2年のCで、アメリカンフットボール部に所属しています。なぜここに来たかは、今述べた2人と同じ理由なんですけれども、18歳選挙権で、僕たちの1こ上の学年の人たちは次の参議院選挙から投票できるんですけども、今、僕たちが本当に投票していいのか、なぜ、18歳に引き下げられたのかとか、そういう社会の流れとかをもっと知りたいと思ってきました。よろしく願います。
- D君 高校2年のDです。部活はアメリカンフットボール部です。なんでここに来たかと言うと、杉浦先生がこういう機会を設けてくださって、まあ、ちょっと時間があつたので、こういう賢い人たちと(会場、爆笑)会ってみたいなと思ってきました。
- Eさん こんにちは。高校3年のEです。私がここに来たのは、つい先月、テニス部を引退して、次に大学に行くまで何をしたらいいかって考えて、セカンドキャリアとしていろんな人と話しをしたいなと思って来ました。よろしく願います。
- 前田 はい、えっと、こんな感じで、とっても緊張しているのが伝わってきましたね。アメリカンフットボール部の2年生が4人と、それから、一つお姉さんの3年生の生徒です。

事前に、私、立命館宇治高校に行きまして、Eさんとか、みなさんのお話を聞いたりとかしましたんで。それをもとに、これから高校生のナマの声を、会場のみなさんを代表して聞いていきたいと思います。もしですね、会場から「こんなことが聞きたい」ということがありましたら、いくつか飛び入りで受け付けます。

最初にですね、今、18歳選挙権になってということで、非常に関心が高いんですけども、高校生みんな、今、そういうのがやっぱり話題になったりしますか。まあ、なってますよね。最初にそれを聞いたときにね、たぶん18歳の選挙権で、自分が選挙、主権者になる、投票権がある、といったときに、たぶん、期待もあるだろう、同時に不安もあるだろうと思うんですね。

最初に聞きたいんですけども、どちらか手を挙げてください。不安と期待と、どちらの方がより強いのか、聞きますね。

期待の方が強い、わくわくする人は？（挙手）・・・Dさんですね。

どんなことが期待しているかって、ちょっとお話ししてもらえますか。

D君 選挙に行ってるのはおとなの人ばかりで、こういう権利が手に入ったから、ちょっと、今まで見てただけだったので、自分も参加してみようと思いました。

前田 という期待ですね。そうすると、不安が大きいというのがあと4人ですね。実は、事前に高校に行って他の人たちに聞いたときも、こんな比率でした。どういったことが不安なのか、お話ししてもらえますか。

A君 やっぱり選挙というのは、政治の事をよく知っておいて投票しないと、間違っただけに進んだりしてしまうのが不安なんで、やっぱりもっと、政治の事を知ってからの方が日本のためになるのかなと思います。

B君 僕も、A君と似てるんですけど、やっぱり流れとか、誰を正しく選んだら、正しい方向に進むのかがまだあんまり分かってなくて、分かってからしっかり選挙に行った方がいいのかなと思います。

C君 僕も不安が大きくて、18歳って、早い人やったら高校3年生になってすぐ18歳で、そんな状況で、選挙の演説とかしてる人がホンマにそれをしてくれるのか、その選択をしてくれるのかというのを、18歳の時点でそういう判断ができるかと言われてたらそうじゃない方が大きいと思うので、不安の方が大きいです。

Eさん 私たち18歳というのは、やっぱり知らない事の方が多くて、政治家の人たちが言っていることはやっぱり難しく感じるので、もっと、学校とかでいっぱい習ったりしないと不安が大きいです。

前田 はい、ありがとうございます。分からないことが多すぎるということで、みんな、だいたい似たような感じですね。

まず最初に、仕組みから分からない。それから、誰に投票したらいいのか分からない。それから、さっき出た、投票したとしてその人が本当にそれ（公約）をしてくれるかの分からない、ということまでありました。いろいろ、やっぱり情報の不足みたいなことがあるのかなと感じるんですけども。

選挙にあたって、例えば、そんな事知りたいな、というようなことはありますか。こういうことが知れたらというのは。どなたでも。

B君 僕の学校は私立で、他の学校に比べれば学費とかも高いと思うんで、奨学金制度

のこととかについて、もっと詳しく知りたいと思いました。

- 前田 なるほど。かなり具体的に出ましたね、奨学金制度ですか。
ここに、毎日新聞（2016年6月9日朝刊）の記事があるんですが、ここに立命館宇治高校のことが出ていたんです。ここに、「高校で白熱質問会」と書いている。やっているんですね、「候補予定者 VS 生徒 160人 京都・立命館宇治」。こういう取り組みなんかをしていると事前に聞いています。その他にもいろいろな取り組みをしているということも聞いています。3年生のEさん。Eさんは、今度の参議院選挙では選挙権は？
- Eさん まだ無いです。
- 前田 今度の選挙ではまだ無い。まだ、17歳ということ。まだ無いですけど、去年1年間、杉浦先生の政治経済の授業（選択）をとっていたんですね。そのときに、1年間どんな取り組みをして、どういうものが良かったのか、ちょっとお話ししてもらえませんか。
- Eさん 杉浦先生の授業は、けっこう、自分たちで考えて、それを人に聞いてもらうというのが多くて。例えば、ディベートとかを行ったんですけど、そのときは、事前に自分たちで、そのときタイムリーな話題、例えば、安保法制とかそういうものを自分たちで事前に反対派、賛成派で分かれて、調べて、それをみんなの前でディベートを行って、それを聞いたうえで、どちら派を決めてとか、そういう授業を行っていて、そういうのが自分の中では印象に残っています。
- 前田 ありがとうございます。ディベートをやったんですね。その他に印象に残っているような授業だとか、こういうことをやったのいいとかは？
- Eさん 18歳選挙とはあまり関係ないんですけど、国際問題について自分たちで何に興味があるかということで、私は「こども兵」について調べたんですけども。（注：会場参加者から、「コドモヘイ？」との声があり、他の参加者から「少年兵だ」「少女兵もいるからこども兵」との補足発言あり。）その「こども兵」について調べて、それを発表して、また、それを大阪で開かれた「ワン・ワールド・フェスティバル」という催しに応募して、私たち、ポスターセッションに選ばれて、大阪でみんなの前で発表して、みんなに聞いてもらうという機会もありました。
それで、「こども兵」について興味をもって、高校3年生で論文があるんですけども、それも続けようということになりました。
- 前田 ありがとうございます。3年生は、去年、そういう取り組みをやって、すごく印象に残ったという話をいただきました。
2年生の人たちにも聞きたいんですけども。杉浦先生の政治経済の授業（選択）をとってられるということで、4月からですよ、5月、6月と2か月半くらい。そういう中で、こういうのが印象に残ったとか、あるいは、杉浦先生の授業でなくてもいいですが、こういう授業が印象に残ったとか、そういう授業はありますか。
- C君 僕たちも、今、ディベートとか、パワーポイントでプレゼンテーションとかしているんですけど。僕が今、一番、心に残っているのは、沖縄の普天間を辺野古に移設するかどうかというのを最近やって。いろんな、その発表者の人たちは、いろいろ調べて、いろんな視点から、僕たちがニュースで、メディアで見たのは、反対

している人らのことばかり見たけれど、いろんな視点から見て、賛成派の、沖縄にも賛成している人もいるし、やっぱり、メディアのことだけを信じてたら正しい判断ができないんじゃないかなということのを思いました。

前田 ありがとうございます。他の人はどうですか。

B君 政治経済の授業で、1人1つずつテーマが決められていて、パワーポイントで1人ずつプレゼンテーションをしていくんですけど。前までやったら名前しか知らなかった政策とかそういうものが、1人1個ずつやるので、詳しく書かれているので、自分の知識がより深まったかなあとと思います。

前田 ありがとうございます。

D君 僕らは、高校2年生になって初めて政治経済の授業を受けたんですけど。僕らそのとき、何も、ほとんど、政治、経済とか憲法のこととか知らなかったんですけど。テーマごとに全員調べて、憲法のことを1からお互い紹介しあって、深く知ることができたのが、最初の授業で良かったです。

前田 はい、ありがとうございます。

A君 中学の頃に、憲法のことを少しだけ勉強させてもらったんですけど。そのときは、内容が薄かったのが、高校生になって、そういうことをパワーポイントにして説明することで、説明するには自分の頭の中にそういう知識をしっかりと入れておくことが大切なので、人に説明することで、知識が定着したかなと思います。

前田 ありがとうございます。こんな感じで、1つか2つ、会場の皆さんの中で、こういうことが聞きたいという質問があれば、

会場S 1人ずつテーマを決めて、ということなんですけれど、そのテーマは、与えられるんですか、それとも自分で選択するんですか？

B君 最初にいっぱい議題があって、それから振り分けられる。

前田 最初に議題が、先生からいくつかでる？

B君 自分はこれ、というのがあって、何か、決まっていく・・・。

前田 最初から決められているの？

杉浦 順番であたっていく。最初の子だけじゃんけんで決めて。どれが当たるかは分からないという感じです。ディバートの場合は、自分の賛成、反対の方にあたるように、希望を聞いて決めます。

前田 なるほど。他に質問はありますか？

会場T 政治経済のお話しとか、そういう資料で、面白いと感じているかどうか、つまり、その理由をお伺いしたい。

- 前田 そうですね。面白くないって、答えづらいよね（会場、爆笑）。でも、本当に正直なところで答えてもらえたら。
- C君 えっと、僕的には、面白いです。それは、他の授業をとって、例えば数学とか国語とか、その授業は先生が教壇に立って、僕たちに一方的に教えてくれるというのが、今まで小学校から学んできて今も続いている授業のスタイルやと思うんですけど。政治経済は、自分から調べて、先生と自分たちの間でいろんな矢印が飛んでいるので、やっぱり、新しいスタイルで面白いなと思いました。
- D君 授業も面白いんですけど、僕は、テーマが決められて調べているときが一番面白くて。自分が、まずそのテーマを与えられるので、知らないことが基本的で、その知らないことを調べているうちに、別のことも知れるというのがいいと思います。
- Eさん 私も面白いと感じています。それは、やっぱり、他の人も言ってたんですけど、自分で調べて自分で発表するという、本当に自分が動かなかつたら何もできないような授業で。それで1年間やってきて、それで選ばれたりとか、そういう楽しさもある。人に知ってもらうことのために自分が調べるといっているので、今まで私、インターネットでしか調べたことがなかったんですけど、これを機会に図書館に行って文献を探ったりとか、新しいことができるようになったので、やっぱりこの授業は面白く感じています。
- 前田 あと2人も聞いておきましょうかね。
- A君 僕は面白いなと思うときと、分からないなと思うときがあって。面白いなと思うのは、日本の政治とか、知らないことが分かって、こういうふうに社会というのは動いているんだなあとと思って、すごいそこは面白いんですけど。分からないのは、調べ学習をしていて、政治のことだと難しいのか、難しい単語とか、そのことを調べてもその内容がよく分からなかったりすることがあって、やっぱり難しいなと思って、そういう分からないところもあります。
- B君 僕も面白いと感じていて、3年生の人みたいに図書館まで行ったりはしないんですけど、Yahoo!とかでテーマ、検索を打ったら、何か5個くらい出てくるじゃないですか、下に。そこでまたポッと押して行って、違うこともいろんな、そこからさらに枝分かれみたいな感じで、さらに知識を深めていけるので面白いなと思います。
- 前田 ありがとうございます。みなさん、面白いんですって（会場、笑）。
最後に、さっきも奨学金、という話が出てましたけど、具体的に、自分たちがこんなことをもっと知りたい、こういうことを知りたい、具体的な身近なことがあれば考えてきてねと、お願いをしているんです。思いつかなかつたらいいですが、もしもあれば、教えてほしいんですけど、みなさん、どうですか。
- Eさん この中で、一番最初に就職するのは私で。その中で、今、非正規雇用の人が増えてっていると聞いて、私もやっぱり非正規になってしまうんじゃないかなと、ちょっと思うんですけど、それが気になっているテーマです。
- B君 僕たちは、この4人は、スポーツをやっている、そのスポーツの人に対する、例えばケガをしたときの手当とか、そういうのはどうなるのかなと思います。

- C君 集団的自衛権のことなんですけども。反対派の人と、賛成派の人がいて、授業でも、ある先生は、私は賛成だ、みたいな感じで言われて、こうこうこういう説明をされて、違う先生は、私は反対だ、みたいな。今日、集まってくださったいろんな人に、それは、ホンマの仕組みと、本当はどっちがいいのかって、たぶん分かれるとは思うんですけど、それは聞きたいなと思います。
- A君 僕は、領土問題のことを知りたくて。竹島問題とか、北方領土問題で。あんまりニュースで聞かない、見ない、ニュースでその対応について見ないなと思って。その問題は、前から話されているなか、結果とか、その話は進んでいるのかとか、すごい気になります。
- 前田 他にはないですか。はい、ありがとうございます。
もう1つくらい、会場から質問があるという方がいれば。
- 会場U Eさんが、調べたことをワン・ワールド・フェスティバルで発表したと言っただけ。教室でも、いろいろ調べ学習をして、みなさんにこういうことでしたと発表しはると思うんですけど。じゃあ、政治経済を受けていない他の生徒さんや、後輩の人や、あるいはおうちの人なんかに、調べたことを紹介して、一緒に議論をしたりすることはあるんですかね。そういう場面があるのか、聞かせてください。
- Eさん 実際にそういう場は無いですけど。やっぱり私としては、あの、学校の「夢プランコンテスト」とかで応募したら、そういう講演会をみんなの前で開いてもらえたりとか、そういうことができるようになるので、そういうことに積極的に取り組めば可能です。
- 前田 「夢プランコンテスト」？ それはどんなもの？
- Eさん 自分がやりたい夢とかボランティアに対して、その、すごいいっぱい企画書を書いたり、先生の前で面接とか、そういうので選ばれたら、最高額10万円のお金で、そういう動くことができるんです。(会場から、へえ、すごい、との声)
- 前田 すごい。それは立命館宇治高校の取り組みですか。
- 杉浦 はい。高校の、公募制でコンペをしています。
- 前田 という感じで、みなさんに、高校生のナマの声をお聞きいただきました。
- (5-4 につづく)